NPO
中帰連平和記念館
CHUKIREN HEIWAKINENKAN

「戦争遺跡保存全国シンポ 広島大会」参加

「第 25 回 戦争遺跡保存全国ネットワーク」の全国シンポジウムが 8 月 20 ～ 22 日、コロナのため 3 年ぶりに戦争遺跡の原点でもある、広島の原爆ドーム側の「広島青少年センター」で開催され 310 人が参加しました。

初日午後からの全体集会では元広島市国際平和担当理事の原田浩さんの『広島の願いを世界へ―平和行政の歩み』と題した記念講演がありました。続いて、戦争遺跡保存全国ネットワーク運営委員の菊池実さんの基調報告があり、次に広島大学名誉教授の藤野次史さんと、多賀俊介さんから「地域報告」がありました。当記念館からも理事ら 5 人が参加しました。

翌日は 9 時～ 15 時まで「保存運動の現状と課題」「調査の方法と整備技術」「平和博物館と次世代への継承」の 3 つの分科会に別れシンポジウムが開かれました。当記念館は芹沢事務局長が第三分科会で『赦された戦犯たち』のタイトルで、「中帰連・記念館」について報告しました。3 日目の 22 日はＡ、Ｂ、Ｃ、Ｄの４コースに分かれ、希望者に「現地見学会」が用意されました。

8月21日（日曜日）　16版 社会 (24)

戦争遺跡の保存や活用の在り方について考察を深めたシンポジウム

戦争遺跡 保存・活用探る

広島で全国シンポ あすまで

（『中国新聞』2022.8.21）

目　　次

・第 25 回「戦争遺跡保存全国ネット」広島大会参加 ･････････ 1
・中帰連・玉木文治さん逝去 ･････ 2
・「沖松さんを偲ぶ会」 ･････････････ 2
・『立命館大学国際平和ミュージアム』来館 ･･ 2
・読む会『ブックレット』完成 ････ 3
・「群馬満蒙開拓歴史研究会」来館 ･･ 3
・奈良県から来館者 ･････････････ 4
・連載 29 回「記念館資料室から」 ･･ 4
・桧山さんの油絵④ ･････････････ 6
・一枚の写真 ･････････････････ 6
・橋本勝さんの風刺マンガ ････････ 6
・寄贈された本から ･････････････ 6

（第３分科会）

「中帰連･玉木文治さん逝去」

島根県の中帰連・玉木文治さんが 5 月 4 日に 102 歳で逝去されたと、後継団体の「あさがおの会」代表の西村弘命さんからご連絡を戴きました。

玉木さんも貴重な証言をしており、中国人を刺し殺した「実的刺突」の証言や、『記憶の澱』(2017 年 5 月・山口放送）の中で、上官から中国人の「遺体の上を歩けと」命令され、「今もそのザクッ、ザクッという足の感触が残ってる」と、辛い体験を証言していました。

写真は白寿の時のお祝いかと思います。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

尚、「あさがおの会」は山陰中帰連を受け継いでいる組織です。

「沖松さんを偲ぶ会」

中帰連と友好関係にあった元軍人 4 団体の一つ、「日中友好 8・15 の会」（旧・日中友好元軍人の会）代表幹事をされていた沖松信夫さんが 98 歳で逝去されされ、6 月 25 日（土）に埼玉・浦和の共催会館で『沖松さんを偲ぶ会』が開かれました。

沖松さんは 45 年 8 月 15 日 15 時に熊谷飛行場から特攻として熊本県健軍飛行場へ前進命令を受けました。しかし、その 3 時間前正午の「玉音放送」で一命を取りとめた体験者でその証言をして来ました。。

戦後、東大法学部を卒業し県立熊谷高校定時制の教師を定年まで勤めました。現職時代は県高教祖の委員長や、退職後も県退職教職員協議会の会長など多忙な人生でした。改めてご冥福をお祈り申し上げます。

（沖松さんを偲ぶ会）

『立命館大学
国際平和ミュージアム』来館

「立命館大学国際平和ミュージアム」の大月さんが、来秋に予定しているミュージアムの「リニューアル」のために、関連映像を探しに 8 月 9 日から二泊三日で当記念に来館下さいました。

ミュージアムは今まで戦争以前の展示がなく、朝鮮併合などを含め戦争以前や戦争への道も展示したいとのことでした。

また今まで「映像」には余り力を入れておらず「映像の力」を再確認し探しています。その映像は既にメディアで公開されているものではなく、市民運動などで記録保存の貴重な映像を探しているとのことでした。

記念館には中帰連以外を含め戦争関連映像が 100 本以上のあり（HP にアップ）3 日間かけて視て戴きました。都内の金子安

次さん、千葉の元 731 少年隊員だった篠塚良雄さん、埼玉の鈴木良雄さんの証言映像をなど使いたいとの事でした。金子さんと鈴木さんは 2000 年に慰安婦問題を裁いた「女性国際戦犯法廷」でも加害証言をしましたが、ＮＨＫがその部分をカットして放送したことは知られている通りです。

読む会『ブックレット』完成

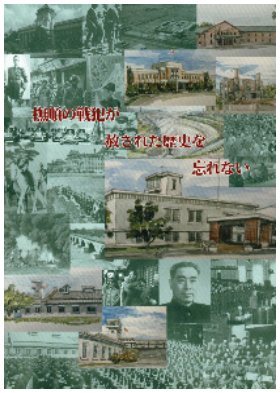
記念館には中帰連の皆さんが管理所で書いた、供述書を製本した 120 巻、約 800 人分の「供述書」が保管されています。

記念館では理事などを中心に、笠原十九司さん（都留文科大学名誉教授）や、荻野富士夫さん（小樽商科大学名誉教授）、松村高夫理事長（慶応大学名誉教授）など、研究者も含め「供述書を読む会」を定期的に開いています。

各自が関心のある中帰連の「供述書」を選び読み込み、「読む会」で感想など発表し合い意見交換しています。折角なのでそれを『ブックレット』に纏めることになり、對島テツ子さんが 731 部隊の元軍医・秦正氏を読み、ブックレット 1 号として『細菌兵器製造の 731 部隊』が完成しました。入手ご希望の方は記念館までご連絡下さい。

記念館のブックレット『撫順の戦犯が赦された歴史を忘れない』の在庫もあります。

（B5 版 46P ¥500）



（B5 版 28P ¥500）

「群馬満蒙開拓歴史研究会」来館

細川清和（記念館理事・満蒙開拓歴史研究会」運営ボランティア）

「群馬満蒙開拓歴史研究会」の皆さんが 5 月 18 日来館下さり、その会の概要を下記にご紹介致します。

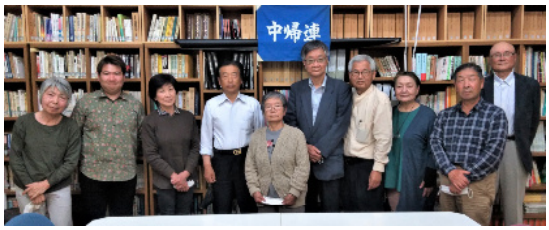
群馬満蒙開拓歴史研究会は、群馬県の赤城山南山麓を中心とした地域の、市民による生涯学習としての歴史研究会です。主催者は東宮春生さんで、大叔父の東宮鐵男大佐という人は張作霖爆殺事件の実行者であり、その後、石原莞爾や加藤完治と協力して“満洲”への武装開拓移民を推進し「満蒙開拓の父」と呼ばれた軍人であり、昭和 12 年に中国で戦死した群馬県の英雄でした。

東宮春生さんはもうじき 70 歳になります。定年までは地元の銀行マンで、歴史の教師や研究者ではありません。しかし先祖の歴史や“満洲”に関わる地元の歴史に関心を持ち、祖父の東宮七男（東宮鐵男の従弟）の著書「東宮鐵男伝」や一族が遺した資料を編纂して「東宮鐵男と満洲開拓移民」を書き、その後 2014 年から毎月一回、前橋市の大胡公民館でこの研究会を開催し、今年の 5 月が第 92 回の研究会でした。又、毎年春に聖跡桜が丘の拓魂公苑で行われている慰霊祭に参加し、過去には“満洲”入植地ツアーも開催しています。

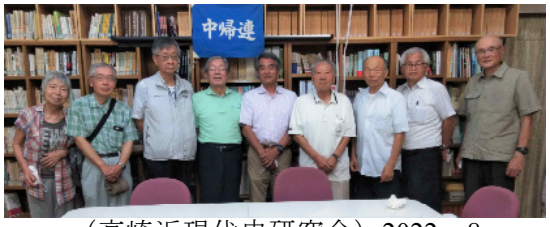
参加者は地元の一般市民で、参加費は資料代 500 円、運営はボランティアが行い、メンバーの中に研究者の様な歴史のプロはいません。近年では参加平均人数が 46 人で多い時は 60 人位になります。研究会は講演会方式で行い、主たる講演者は満蒙開拓経験者やその子孫ですが、時々満洲の歴史に詳しい研究者や本の著者、例えば牧久さんや一條三子さん等に講演をお願いしています。 5 月 28 日の第 92 回研究会では、

小池安好さんと言う現在 96 歳の現役農民が、地元の旧木瀬村が分村して満洲へ入植した時代背景から、開拓民の実態、根こそぎ動員での関東軍入隊、ソ連軍との戦闘、シベリア抑留、帰国後に赤城山に再開拓入植した時の苦労について話しました。この方は、満蒙開拓民は抗しがたい時代の渦の被害者であったが、同時に満洲の農民に対する加害者だったという認識を持っていました。しかし参加者の歴史認識は様々です。

赤城山麓からは旧木瀬村（前橋市駒形駅付近の村）を中心に満蒙開拓移民が多数渡満しています。開拓民は引揚後、北軽井沢や赤城山中腹の現東金丸町に再入植し、苦労して荒れ地を開墾し今日の生活を築き上げました。研究会参加者の多くの親兄弟、親類縁者などが“満洲”と何らかの関りを持っているので、皆さん満洲の歴史に興味を持っていて、それが、研究会参加者が未だに多いことの一因になっているようです。地元の身近な歴史から時代をさかのぼり、満蒙開拓史に主眼を置き近現代史を見つめ直すという視点を共有していますが政治性はありません。時々全国紙が記事にしますが、地元の上毛新聞が頻繁に記事として掲載しています。



（群馬満蒙開拓歴史研究）2022・5



（高崎近現代史研究会）2022・8

「奈良県から来館者」

奈良県大和郡山市から記念館だけを目的に古川啓司さんが来館下さいました。

古川さんは既にネットで「中帰連・記念館」を知っており、5 月 25 日午後に来館し、芹沢事務局長の説明の後 2 時間余り中帰連関連の映像を 2 本観て戴きました。その後、館内資料をシッカリ見学されていました。宿泊は近くのビジネスホテルへご案内しました。

折角の上京なので、翌日の午前中に記念館から車で 30 分ほどの「原爆の図・丸木美術館」へご案内しました。此方も初めてとのことで熱心に見学し「感想ノート」にも記入していました。

帰りには「カンパ」も戴き、「明るいうちに帰宅できた」とお礼のメールも届き、有り難う御座いました。

（古川さん「丸木美術館」で）

連載　記念館資料室から
第29回　安保条約改訂を前にした危機感

石田隆至（「中帰連に学ぶ会」事務局）

『前へ前へ』18号は、1959年6月25日の発行です。

構成はやや異例で、学習資料やそれを基にした中帰連本部としての立場表明が大きく占めています。翌年に控えた日米安保条約改訂への動きが加速し、その阻止・廃棄の運動も高まっていた時期でした。同条約の全文も掲載されています。会員個人の思

いも記されていますが、本部の立場表明を確認しておきます。

日米安保条約は、中帰連会員がまだ戦犯管理所にいた1952年4月に成立しました。その前文には、同条約が必要となる情勢判断が記されています。いわく、日本は憲法9条で武装解除されているため、独立の回復後に自衛権を行使する手段がない、しかも「無責任な軍国主義がまだ世界から駆逐されていない」ので、たいへん危険である、と。冷戦期ですから、この「無責任な軍国主義」とは、社会主義圏であるソ連と新中国を指しています。改訂とはいえ、この前提は基本的に踏襲されます。中帰連にとってこれはもちろん受け入れ難い立場でした。**「安保条約の改定で日米間の協力親善体制はたしかにかためられるであろうが、それは中ソを日本にとって危険な侵略者とし、『無責任な軍国主義』とみる立場がいよいよかためられてきていることの結果であるといってよい」**。

条約の改定に反対する政党や労組は当時は少なくなかったのですが、中帰連は独自の経験と立場から、これに反対することを表明します。**「中連は直接的には政治上の見解や立場の相違から反対しようというのではない。人間として真理と良心に忠実であらねばならないという気持ち、いわば人道主義という面から、まず第1に中・ソを『無責任な軍国主義』とみることに反対なのである。これはウソである。高度な理論をもち出すまでもなく、とりわけ新中国に足かけ6、7年をすごしてこの目でみ、このからだで味わってきたのだから間違いはない」**。

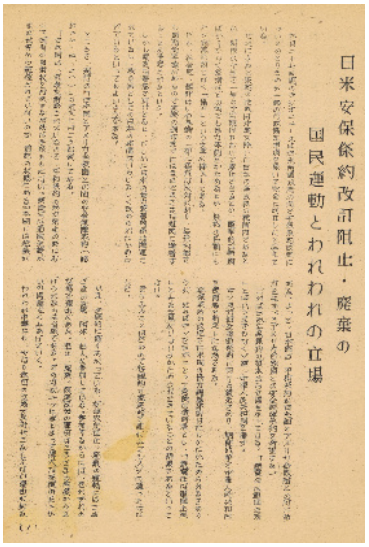
さらに、戦争中の自らの過ちからも、看過できないという指摘が続きます。

「『日独伊三国防共協定』いらい、われわれは反共政策の生みだすもろもろの場面の中で生きてきたし、その結果としての人間の悲惨を、それとも思わずやってのけ、自分の身にもかぶってきた。簡単に『戦争』というけれども、われわれが体験した『戦争』はすべて反共という政治の梁の下で『人間』が押しつぶされてきた歴史である。われわれはもうそういう『政治』は真っぴらである。われわれはどんな色眼鏡にも御免をこうむって、素朴なありのままの人間同士のつきあいと善意に生きたい。歪められた政治（戦争）の一歩手前にあるハダカの人間の美しさと日本人としてのほんとうの誇りに目ざめることができたのが中国であったし、新中国という環境がそれをさせてくれた」。

ここから、戦前と同じように反共政策の片棒を担げば、同じ過ちを繰り返してしまうという危機感が導かれます。**「日本の政府のいい分を国民が納得して安保改定を許したとすれば、それは国民が中国という国を知らず、むかしながらの反共思想にとらわれた恐怖、懐疑、不安、蔑視のなかにとじこめられているからである」**。

だからこそ、**「ウソの土台」**を崩す行動と語りが中帰連の使命だと結論付けます。

「日本が独立国としてアメリカとの友好親善関係を深めることはもちろんよいことだ。もしそれが人間としての善意にささえられているならば、友好の手は中国はもちろん世界のどこへでもさしのべられるだろう。しかし、中華人民共和国を侵略者とするウソの立場をいっそう深めるような日米親善は世


日米安保條約改訂阻止・廃棄の
国民運動とわれわれの立場

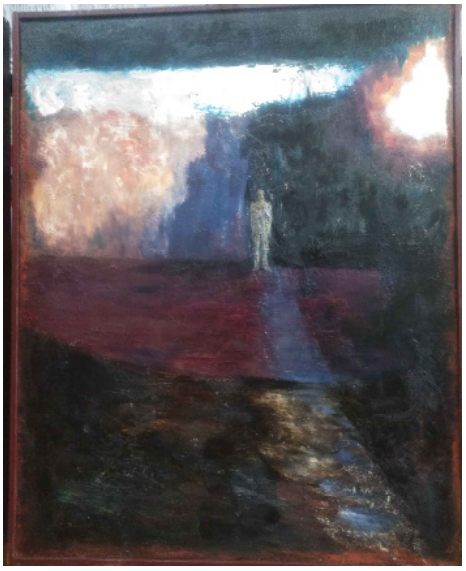
界をいがみあいと猜疑の破滅に追いやるだけである」。

それを回避することは、**「日本人としてのほんとうの誇り」**に目覚めることでもあります。**「アジアやとりわけ中国を侵略戦争の惨禍につき落とした日本人として、いま民族の誇りは何かといえば、日本人は過去の過ちを率直に認めてその責任をとることができる立派な誠実さと人間性の持主であることを示すことだ。中連が存在する価値はここにある**」。

中帰連が対峙してきた「ウソの立場」に、60年後の私たちはどう向き合っているでしょうか。

桧山さんの油絵 ④

（中帰連・福岡支部、元美術教師）

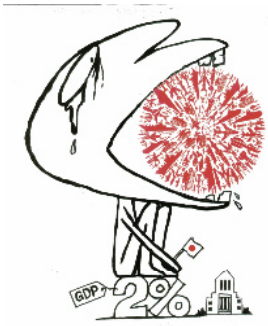


「夢」

【 一 枚 の 写 真 】

（「中帰連」主催最後の訪中・2000.9 月）

橋本勝さんの「風刺マンガ」



軍事費「GDP」２％など許されない。大企業の内部留保も経常利益も最高、でも所得格差は広がり賃金も上がらず。

「寄贈された本から」

『NPO 中帰連平和記念館』
〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6
TEL&FAX：０４９－２３６－４７１１
E-mail：npo-kinenkan@nifty.com
ＨＰ：http://npo-chuukiren.jimdo.com/
ＭＬ：npo-kinenkan@freeml.com
郵便振込口座名「NPO 中帰連平和記念館」
振込口座　：００１５０－６－３１５９１８
開館日：「水、土、日」（10:30 ～ 16:30）